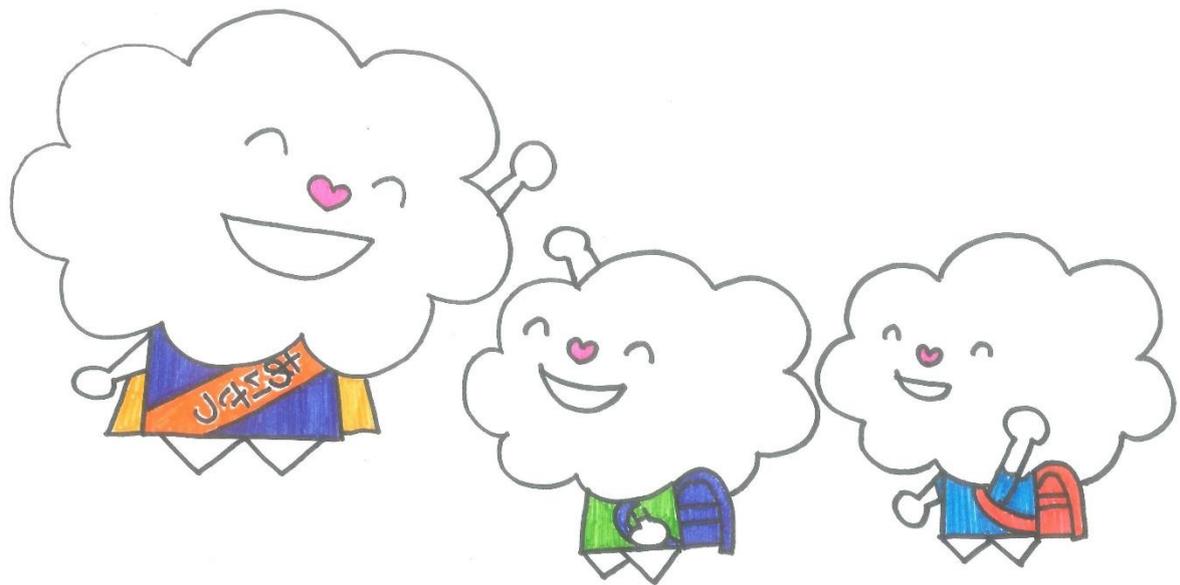


令和2年度
雲南市
特色あるふるさと教育事例集

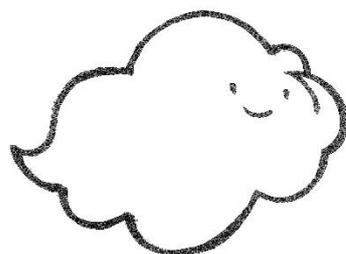


令和3年 3月

令和2年度
雲南市 特色あるふるさと教育事例集

目次

大東小学校	… 2
西小学校	… 3
佐世小学校	… 4
阿用小学校	… 5
海潮小学校	… 6
加茂小学校	… 7
木次小学校	… 8
斐伊小学校	… 9
寺領小学校	… 10
西日登小学校	… 11
三刀屋小学校	… 12
鍋山小学校	… 13
吉田小学校	… 14
田井小学校	… 15
掛合小学校	… 16
大東中学校	… 17
海潮中学校	… 18
加茂中学校	… 19
木次中学校	… 20
三刀屋中学校	… 21
吉田中学校	… 22
掛合中学校	… 23



特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立大東小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
4	総合的な学習の時間	赤川ホタルレンジャーになろう	赤川ホタルについて調べる活動を通して、地域の環境や地域の人の思いについて考える。

1 取組の概要

(1) 発達段階をふまえた探究型カリキュラムの構想

発達段階に留意し、「ふるさと教育の各学年でのねらい」を考えた。それを基に「総合的な学習の時間と生活科のねらい」を考えた。またホタルをテーマにした環境学習単元を全学年に位置づけ、6年間を通じた系統的な学びにより探究的な学びの深まりを目指すこととし、各学年の「ホタルに関する学習のねらい」「探究の四過程における児童の姿」「学校全体の年間指導計画」を昨年度作成した。それに基づき学習を進めていった。



(2) 探究的な学びの授業実践

赤川ホタルの学習を中心に行う4年生において、ホタルを題材とした「探究的な学びの3サイクル」を展開した(表1)。

表1 探究的な学びの3サイクル

探究的な学びのサイクル	実施時期	各サイクルの単元の「学習課題」
第1サイクル	5~7月	「ホタルってどんな生きもの？」(15時間)
第2サイクル	9~10月	「なぜ赤川にはホタルがたくさんいるの？」(16時間)
第3サイクル	10~11月	「ホタルの住める赤川を守る作戦を考えて伝えよう！」(14時間)



2 ふるさと教育の視点を持った授業(活動)にせまるための授業づくりのポイント(工夫)

探究的な学びの「生み出し」と「つながり」、そして「深まり」を目指し、各探究の過程における手立てを表2のように行い、授業を実践した。

表2 各探究の過程で行った手立て

①課題の設定	○思考ツールを用いた児童の既存知の整理 ○児童にとって驚きや違和感のある情報提示⇨考えたい必要感の獲得 ○問い返しによる児童の言葉の活かし ○ゴールの表現活動の設定 ○単元の学習活動の流れの共有
②情報の収集	○課題に応じた情報収集活動の設定 ○「情報収集プランニングシート」と「計画・振り返り、次時への見直しシート」による調べ活動のPDCAサイクルの構築 ○情報収集のための図書資料や調査活動、出前講座などの選定と準備(学校司書や地域、外部の専門家と連携して)
③整理・分析	○思考ツールの活用と、ペアやグループでの話し合い活動による、「情報の収集」段階で得た情報の整理・分析活動 ○ペアやグループ間での情報交換による、自分たちの整理・分析の練り直しの場の設定
④まとめ・表現	○ゴールの表現活動の目的や相手意識、見通しの具体化(「表現活動の5W1H」の話し合い) ○まとめや表現活動の「計画シート」の作成○教師からの「伝えるコツ」や「伝えるモデル」の提示 ○グループ間での情報交換による練り直しの場の設定(アドバイスタイム) ○来年度ホタル学習をする3年生へ向けて発表する場の設定

3 児童に見られた変容

児童においては、探究の各プロセスへの意識が高まり、学びへの意欲や姿勢の向上が見られた。あわせて、地域への肯定的な意識・態度の獲得が見られた。

特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立西小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
2	生活科	「コウノトリとなかよし Part 2」	<ul style="list-style-type: none"> ・コウノトリへの愛着・心情、生命を慈しむ心を育むことで、ふるさとを大切にすることを養う。

1 取組の概要

- ・川や田んぼでの生き物調査(コウノトリになってエサさがし！)
- ・町探検 (町のコウノトリ博士に話を聞こう！)
- ・観察記録

2 ふるさと教育の視点を持った授業(活動)にせまるための授業づくりのポイント(工夫)

- ・単作りをしているコウノトリの様子が見えるようにライブカメラの画像が見えるように教室近くにパソコンを設置し、観察をしやすくした。
- ・実際にコウノトリが飛来する学校の近くの田んぼで活動を行うことで、生き物調査が繰り返しできた。
- ・調べたり観察したりする力をつけるために、生き物を飼育し、その様子を他学年に紹介する活動を取り入れた。

3 児童に見られた変容

- ・営巣の様子をカメラで見て観察することで、コウノトリへの興味関心が高まった。
- ・たくさんの生き物をつかまえ観察することで地域の自然の豊かさに気づくことができた。
- ・コウノトリに対する地域での取り組みにふれることで、地域のよさを考えることができた。



田んぼでの生き物調査



川での生き物調査



1年生に発表

特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立佐世小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
4	総合的な学習の時間	佐世川の魅力を伝えよう	・ 地域を流れる河川について調べることを通して、地域の環境保全について考えたり、地域の一員としての自覚を高めたりする。
<p>1 取組の概要</p> <p>(1)佐世川について知っていることや知りたいことについて話し合い、活動計画を立てる。 (2)学校近くの親水広場（かわこ）で、毎月調査活動を行う。（水質調査、生き物調査、川辺の様子調査等） (3)佐世川の源流や中流、下流、他の河川との合流地点等の見学を行い、佐世川全体の様子について把握する。 (4)調べたことや体験したこと、他の人にも知ってもらいたいこと等を、学習発表会で保護者や地域の人に向けて発表する。 (5)調査活動の概要や調べて分かったこと・考えたこと等を模造紙にまとめる。</p> <p>2 ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）</p> <p>(1)地域人材の活用 地域の方をゲストティーチャーとして招き、昔の佐世川の様子や昔の子どもが佐世川でどんな活動（遊び）をしていたか聞いたり、佐世川に古くから残る「河童伝説」について教えてもらったりした。</p> <p>(2)地域コーディネーターとの連携 佐世川の源流や下流の調査では、地域コーディネーターと連携し、活動の計画を一緒に考えたり、子ども達が河川調査をしやすいよう事前に環境を整えてもらったりした。また、それぞれのポイントで河川の状況について説明してもらった。</p> <p>(3)定期的に複数回行う体験活動 今年度はコロナ禍のため例年より実施回数が少ないが、水質調査は毎月行うよう心掛けた。季節ごとの川の様子を目で見て、肌で感じて体験することで、ふるさとの豊かな自然環境に気づくことができるようにした。</p> <p>3 児童に見られた変容</p> <p>水質調査や佐世川に住む生き物の実態から、佐世川の水がとてもきれいであることがわかり誇りに感じていた。それと同時に、生き物が多く棲むきれいな佐世川をこれからも守っていかなければならないという心情が芽生えた。活動を重ねるごとに、地域への愛着や地域の一員としての自覚が深まっているようであった。</p>			



特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立阿用小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3.4	総合	ふるさと阿用 ～阿用川について調べよう～	阿用川の水質調査をしたり生き物調査をしたりして、阿用地区の環境について考える。

1 取組の概要

- 1) 阿用川について知っていることを出し合い、調べてみたいことについてテーマを決める。
- 2) 川について、資料をもとに調べたり、調査方法について考えたりする。
- 3) 阿用川の様子や水道施設とのつながりなどを知る。
- 4) 地域講師と一緒に阿用川で、水透視度調査、CODパックテスト、水生生物調査をする。
- 5) 調べたことを整理してテーマに沿ってまとめ、学年発表で全校や保護者に向けて情報発信する。

2 ふるさと教育の視点を持った授業(活動)にせまるための授業づくりのポイント(工夫)

1) 児童の知りたいこと、明らかにしたいことを大切にし、まずは、阿用川について知っていることを出し合い、調べたいことについてのテーマ(イメージ)をもたせた。その際、阿用川について家庭での聞き取りをすることで、阿用川をより身近なものとして捉えられるようにした。

2) 学校のすぐ近くの場所で水質調査や観察会(水生生物調査)を実施、講師にも雲南市在住の方に来てもらい、阿用川だけでなく近隣の河川についてもお話をしてもらえるようにした。

3) 全校の前で発表することを目的の1つにして、自分たちが知ったり考えたりしたことを、よりわかりやすく伝えるための工夫をするようにした。

また、自分たちが阿用川のよさを伝えることで、さらに地域への愛着が深まると考えた。

3 児童に見られた変容

1) 検査によって地域の身近な川がきれいな川であることが分かり、さらにその川でいろいろな生き物を見つける経験をしたことは、子どもたちにとっては大きな喜びとなった。

そして、このきれいな川を大切にしたいという気持ちを強くもつようになり、自分たちにできることは何なのかを真剣に考え、全校への発表につなげた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立海潮小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合	福祉について知ろう ～海潮の高齢者へ やさしい心お届け隊～	・福祉についての話を聞いたり、疑似体験したりすることを通して、地域に住む高齢者に対して、自分たちにできることを考える。
<p>1 取組の概要</p> <p>(1) 社会福祉協議会の方から福祉の話を聞き、福祉の考え方や海潮には高齢者が多いことを知る。</p> <p>(2) 家で高齢者にインタビューした後、高齢者疑似体験をペアで行い、高齢者の気持ちと支える人の気持ちを知る。</p> <p>(3) 海潮のデイサービスを知り、交流会を計画して実行する。</p> <p>(4) 1回目の交流会をふり返り、成果と課題を話し合い、2回目の交流会を計画し実行する。</p> <p>(5) 2回の交流会での学びを活かし、身近な高齢者へ自分のできることを考えて実行する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 60%;"> <p>2 ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）</p> <p>(1) 地域の人（ひと）、施設（もの）との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域C N、雲南市社会福祉協議会の職員の方、海潮デイサービスの職員の方、デイサービス利用されている地元の高齢者、海潮交流センター等地域の人や施設と連携して、学習を進めていく。 <p>(2) 体験活動による主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者疑似体験やデイサービスでの交流会等、高齢者という相手意識をもった体験活動を設定することで、児童の主体性を高める。 ・交流会を2回実施することで、PDCAサイクルを繰り返し、児童にとって見通しのもてる探究的な学びにつなげる。 </div> <div style="width: 35%;">  <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">ペアで高齢者疑似体験をする様子</p> </div> </div> <p>3 児童・生徒に見られた変容</p> <p>(1) 高齢者に視点をあてて学んだことで、相手のことを考えて行動しようとする意識が高まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他教科で高齢者にお礼の手紙を書いているとき「お年寄りさんだけん、大きい字で書かんと見えにくいよ。」という声が児童から聞こえた。 ・グループで話し合うとき、自分の意見を言うだけでなく、友達の意見に耳を傾けたり、自分の考えを変えたりゆずったりすることができるようになってきた。 <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 60%;"> <p>(2) 交流会等の体験から出てきた課題をみんなで解決しようとする力がついてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目の交流会で計画していた活動が時間の都合で一つできなかった。それを解決しようと、事前に時間も決めてプログラムを作るという案が出て、当日実行することができた。 </div> <div style="width: 35%;">  <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">交流会で折り紙を一緒にする様子</p>  <p style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: fit-content;">「思考ツール」を用いて話し合う様子</p> </div> </div>			

特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立加茂小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
4	社会	自然災害からくらしを守る	過去に発生した加茂の大水害について、地域の方の話を聞いたり調べたりして、地域の関係機関や人々は様々な協力をして対処してきたことを学び、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。
<p>1 取組の概要</p> <p>(1) 自分たちの住む地域では、どんな自然災害が起こっているか調べる。 (家族へのインタビュー・加茂の年表)</p> <p>(2) 昭和39年の大水害について調べる。(地域講師の活用、インターネット、パンフレット等)</p> <p>(3) 学んだことをもとに地域へ向けて発信する。(学習発表会)</p> <p>2 ふるさと教育の視点を持った授業(活動)にせまるための授業づくりのポイント(工夫)</p> <p>(1) インタビューや、加茂町史の年表や写真より、自分たちの住んでいる地域は、過去に水害がたくさん起きている事実を知ること、より深く調べてみようという意欲を持たせる。</p> <p>(2) 昭和39年の大水害について、当時、実際に避難の呼びかけをされていた方から実体験を聞く場を設定することで、当時の被害状況、地域の人々の避難の様子、復興へ向けて地域の人々がどのように協力してきたのか、より深く知ることができるようにする。</p> <p>(3) 本単元と、総合的な学習の時間の「赤川探検隊」(・ヤマタノオロチ伝説について ・赤川に住む生き物について ・赤川の環境について)で学習したことを発表する場を設定し、地域を守っていくために、自分にできることについて考えようとする意欲を持つことができるようにする。</p>			
<p>3 児童に見られた変容</p> <p>・地域講師の方の話を聞いた児童の感想より</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・お話を聞かせてもらって「えっ」と思いました。すごい音で木が倒れていた、渦を巻いていたと聞いて想像ができなかったからです。 ・お話を聞いた事をきっかけに水害のことに興味をもって色々調べてみました。まだ、分からないことがあるので調べていきたいと思います。 ・教えていただいた「水害は、忘れたころにやってくる。」という言葉がずっと心に入れておいて、水害がいつおきても大じょうぶなように、準備をしておきたいです。 ・これから、私は人のことを考えて、災害がおこった時には、お年寄りの方やはやく動けない人に声をかけられるようにしたいなと思いました。 </div> <p>以上のように、自分たちの住む地域で実際に起こったことを知り、体験された方の話を聞いたことは、「もっと調べてみようという意欲」や「学んだことを今後の生活に活かしていこうという気持ち」に繋がった。今年度は、実際に会って話す機会が持ちにくかったが、地域について「ひと・もの・こと」にふれる経験は、児童にとって大きな学びにつながるので、今後も積極的に取り入れていきたいと考える。</p>			
			
			

特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立木次小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合的な学習	ヤマタノオロチ伝説	地域の名所に関わる「ひと・もの・こと」と出会い、大切さ、すごさを改めて考える。
<p>1 取組の概要</p> <p>1) 「ヤマタノオロチ」の絵本の読み語りを聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝説に出てくる登場人物や伝説が残る場所について、パンフレット等で調べる。 ・「もっと、伝説に出てくる場所や人物について詳しく知りたい」という意見が出てきた。 <p>2) ゲストティーチャーとして来校していただき、バスに乗って伝説にゆかりのある場所を巡るツアーを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に来ていただき、温泉神社や天が淵、八本杉など伝説にゆかりのある場所の説明を聞いた。 <p>3) 調べてわかったことを「ヤマタノオロチ新聞」としてまとめる。</p> <p>4) ヤマタノオロチ伝説をもとに、劇をつくり、学習発表会で保護者に披露した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員が伝説の登場人物になりきり、演じることができた。 ・劇を通して、古くからの伝説を雲南市の人々が大切にしていることを学ぶことができた。 <p>2 ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）</p> <p>1) ヤマタノオロチに関わる「もの」「ひと」の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマタノオロチ伝説について調べるだけでなく、実際に伝説にゆかりのある場所を詳しく知る「ひと」にじっくり関わることで、雲南市のすばらしさに興味関心をもてるようにする。 <p>2) 目的意識をもった成果発表の場を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ヤマタノオロチ新聞」を調べてまとめるだけでなく、ヤマタノオロチ伝説を劇にして学習発表会で発表した。相手を意識し、学習成果を表現していくことで児童は、意欲的に学習に取り組むことができていた。 <p>3 児童に見られた変容</p> <p>1) 「ヤマタノオロチ伝説」について学習することで、地域にある歴史的な場所について興味関心をもつ児童が増え、保護者の方に調べたことを話す児童などもいた。ヤマタノオロチツアーの後、家族でその場所を訪れた児童がいた。</p> <p>2) 雲南市に残る伝説にかかわる場所のことを新聞にまとめたことで、雲南市のすばらしさに気付き地域に対する愛着をもつことができた。</p>			



特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立斐伊小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	社会	ぶどうハウスを見学しよう	ぶどう栽培をしておられる方の努力や工夫、自然に優しい栽培方法を知る。
<p>1 取組の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月…第1回目見学（栽培の様子の見学と手入れ方法（摘房、水やり、無農薬）の話。） ・ 7月…第2回目見学（1回目の様子と比較。糖度計を使って糖度の計測など） ・ 9月…第3回目見学（収穫の様子。収穫後、来年に向けたぶどうの剪定作業の話など。） <p>2 ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無農薬栽培による自然や環境にやさしい育て方を知ることで、地域の豊かな自然をこわさないように生活することの大切さを知る。 ・ 自分たちの住んでいる環境を守ろうとしておられる方の思いを聞いたり、努力しておられる姿を見たりすることで、普段の自分たちの生活を振り返るようにする。 <p>3 児童に見られた変容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段なにげなく食べているものが、たくさんの苦労や努力が詰まったものであることを強く感じる事ができた。食に対する感謝の気持ちの高まりも見られた。 ・ 自分たちの住んでいる地域には、将来の環境のことまで考えて、手間をかけてがんばっておられる方がいることを知ることで、環境や自然を守ることへの意識が高まった。 			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>1回目 摘房作業</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>2回目 糖度計で糖度計測</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>3回目 収穫作業</p> </div> </div>			

特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立寺領小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
2	生活科	やさいをそだてよう	野菜栽培に関わる体験学習を中心に、ふるさとの「ひと・もの・こと」との出会いを大切にする。

1 取組の概要

- 1) 野菜(スイカ、大豆、トウモロコシ、トマト、キュウリ、ピーマン、オクラなど)の栽培について自分で調べたり地域の方に聞いたりして、栽培活動を行う。
⇒種まき・苗植え・水やり・肥料やり・間引き・草抜き・収穫などの体験をする。
- 2) 体験や観察の中で気づいたことを記録カードに書いて表す。
- 3) 学習発表会で活動の様子を劇化し、全校児童・保護者・地域の人に発信する。
伝えたいことを明確化し、相談しながらシナリオをつくって、劇にして表現する。
- 4) 収穫したトウモロコシで「ポップコーン」を作り、学習発表会で販売し、活動を広く知ってもらおう。
- 5) 「ありがとう会」を開催し、お世話になった方を招待し、感謝の気持ちを表す。

2 ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 1) 体験重視のふるさと教育
地域の人と関わりながら、数種類の野菜を継続して栽培することで、野菜の様子に合わせて世話の仕方を工夫したり植物の変化や成長の様子に気付いたりできるようにする。
- 2) 相手意識をもった成果発表の場の設定
野菜栽培の様子を学習発表会で劇化して保護者、地域の方に伝えることにより、相手意識をもって表現する力を培う。
- 3) 感謝の気持ちを伝える場の設定
「ありがとう会」で、活動の様子をプレゼンテーションしたり、手紙やプレゼント(育てた大豆やポップコーン)を渡したりすることで、地域の方に感謝の気持ちを伝えることができるようにする。

3 児童に見られた変容

- 1) 野菜を栽培したことがない児童も多かったが、継続して世話を続けたことで野菜を大切に思う気持ちや収穫までの苦労を感じることができた。また、草抜きや豆の選別などの地道な作業を行うことをとおして、根気強さが身に付いた。
- 2) 最近はあまり使われなくなった「唐箕(とうみ)」を使う体験もし、昔の道具について知り、興味を持ったりその便利さに気付いたりすることができた。
- 3) 地域の方の技術や優しさに触れる体験を積み重ねたことで、地域の方への愛着や感謝の気持ちが増した。
- 4) 劇化に向けて、小道具作り、セリフの言い回しなど、児童が工夫しながら主体的に活動を進めた。知り得た知識や感じた思いを人前でしっかりと表現することができるようになった。







特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立西日登小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3・4	総合的な学習の時間	高津公園はかせになろう	学校敷地内にある高津公園の歴史や自然を調べたり地域の方の話を聞いたりすることで理解と愛着を深める。

1 取組の概要

1. 高津公園を散策し、その中の施設（天満宮）や自然に親しむ。
2. 発見したことや、わかったこと、感じたことを話し合って交流したり、図鑑を作ったりして高津公園の魅力を確かめ合う。
3. 高津公園の歴史や変遷について、地域講師から話を聞く。
4. 高津公園の魅力を伝える新聞をつくる。
5. 「にしっ子発表会」で劇を通して高津公園の魅力を発信する。

2 ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

1. 高津公園に親しむ時間をたっぷり設ける。
 - ・気候のいい日に、みんなで散策したり、植物等の自然に親しむ活動を行い、高津公園のよさを実感できるようにする。
 - ・チームに分かれて、調べたいこと（植物、生き物など）を調べる時間をとる。
2. 目的意識をもった成果発表の場を設ける。
 - ・「にしっ子発表会」で高津公園のよさを地域の方や保護者に発信することを目標に、調べたりまとめたりする意欲を高める。また、相手意識をもった劇の中身を吟味できるようにする。
 - ・地域の講師に発表会のDVDを見せることで、地域講師から学んだことを、学習の成果を伝えることで返すことができるようにする。

3 児童に見られた変容

1. 自分たちで興味をもって調べたことについて、自信をもって発信したり、日常会話の中で話をしたりする姿が見られた。
2. 調べてまとめることやプレゼンテーションをすることに自信をもち、他の学習でも意欲的に取り組む姿があった。
3. 自分たちが学んだことを、発表会で伝えようと、表現力の向上に取り組んだ。



特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立三刀屋小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
5	総合的な学習	三刀屋の素敵な人・もの・こと	地域の方と米作りに取り組み、米作りに対する地域の方の思いや願い、工夫や努力などにふれ、収穫の喜びを一緒に味わい感謝の気持ちをもつ。

1 取組の概要

- 1) 米作りについて知っていることを出し合い、田植えを体験する中で、米作りについて知りたいことや調べたいことを考え調査する。
- 2) 調査結果を整理・分析し、どのようにまとめると分かりやすいか、また、どのように表現すると伝わりやすいかを考え、伝え方を工夫して発表する。
- 3) より縄作り、稲刈り、脱穀などの収穫作業を体験し、そこで感じたことをまとめ、三刀屋の素敵などころを考え、どのように伝えるかを考える。
- 4) 米作り体験を通して学んだこと、自分たちで考えた三刀屋の素敵などころを学習発表会で保護者や地域の方に伝える。また、作ったお米を道の駅で販売し、お米のパッケージに貼るメッセージを考え、自分たちの思いを広く伝える。
- 5) これまでの学習を振り返り、お世話になった方へ感謝の思いをもち、その思いを伝える方法を考え、収穫祭を計画・準備し、お世話になった方へ感謝を伝える。
- 6) 単元全体を振り返り、学習を通して身につけた力や、今後自分がしたいこと、なりたい自分について考える。



2 ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 1) 必然性や必要感のある単元構想
地域の方の協力のもと米作り体験を積み重ね、体験活動が終わるごとに振り返りを行い、米作りの苦労や地域の方のあたたかさ、三刀屋を愛する思いに気づけるようにする。
- 2) 考えたり表現したりする場の充実
隣の学級や学習発表会で発表する場面を設定し、相手意識や目的意識をもって、まとめたり発表したりできるようにする。

3 児童・生徒に見られた変容

- 1) 体験活動の後に振り返りを行い、友だちと共有することで、米作りの苦労や地域の方のあたたかさ気づくことができた。
- 2) 学習したことをまとめて発表する活動を行い、どうすれば相手に分かりやすく伝わるかを意識するようになった。
- 3) 米作りを通して地域の方との交流を深め、地域の方の思いや願い、工夫や努力などにふれ、地域の方へ感謝の思いをもち、ふるさと三刀屋のよさに気づくことができた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立鍋山小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
4	総合	地域の伝統を受け継いでいこう	地域の伝統を守り続けている方々との交流を通して地域の一員として自分たちができることを考える。

1 取組の概要

- 1) 地域に伝わる獅子舞の歴史を学ぶ。(地域講師)
- 2) 地域に伝わる獅子舞を鑑賞する。(DVD)
- 3) 地域課題について話し合う。(どうしたら地域の伝統を守っていくことができるか。)
- 4) 舞い方を学ぶ。(地域講師)
- 5) 学びを学習発表会で地域に発信する。
- 6) 地域課題解決に向けて話し合い、新聞にまとめる。



2 ふるさと教育の視点を持った授業(活動)にせまるための授業づくりのポイント(工夫)

- 1) 地域の「ひと」や伝統(「こと」との連携
 地域の伝統について知り、実際に地域の方に指導してもらい、最後に地域に発信していくことによって、より「ひと」や「こと」に興味・関心をもてるようにする。
- 2) 目的意識をもって学ぶことができる地域課題を設ける。
 自分の住む地域の伝統を守るために、自分たちができることを考え、実際に地域に還していくことをイメージできる地域課題を設定する。



3 児童に見られた変容

- 1) 地域の伝統である獅子舞を実際に体験したことで、観ているだけではわからなかった舞の複雑さを知り、伝統を守っている「ひと」へのあこがれが今までよりも強くなったと答える児童が多く見られた。
- 2) 単元導入時には「獅子舞の面白さを新聞にすれば伝統を守れる」といった声が多く聞かれたが、実際に新聞にする際には、「実際に体験してもらおう人を増やしていくことによって獅子舞の面白さが伝わるので、獅子舞に興味をもってもらうきっかけになるような新聞にした方がいい」という意識に変わっていった。(目的と手段の関係の思考“何を目的に、どう手段を講じていけばいいか”の変容が見られた。)



特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立吉田小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
1・2	生活科	むかしからつたわるあそびをたのしもう	○地域の方に教えてもらいながら、昔から伝わる遊びに親しみ、楽しむことができる。 ○地域の方に教えてもらった遊びを、保育所の子どもたちに伝え、一緒に遊びながら楽しんで交流することができる。

1 取組の概要

- (1) 地域の方に教えてもらいながら、昔から伝わるいろいろな遊びをする。(今回は、紙飛行機、竹とんぼ、風車、けん玉、お手玉、あやとり、こまを教えてもらった。)
- (2) 地域の方に教えてもらった遊びの中から3つの遊びを選び、保育所の子どもたちに伝え、一緒に遊びながら交流する。(今回は、紙飛行機、こま、けん玉を選んだ。)

2 ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

(1) 練習する場の設定

地域の方に教えてもらう3週間前くらいから、教室の中に当日教えてもらう予定の遊びで使う道具を置き、自分たちだけで休み時間などに練習できる環境を整えた。当日に、はじめてやってもなかなかできないので、少しずつ取り組んでおくことで、より昔から伝わる遊びに親しみ、楽しむことができると考えた。

(2) 自分たちでプログラムの準備や会の進行

地域の方に教えてもらう日「むかしからつたわるあそびをたのしもう」のプログラムの準備や会の進行は、すべて子どもたちが行うようにした。このようにすることで、子どもたちが主体的に活動できると考えた。

(3) 成果を発揮する場の設定

3学期には毎年吉田保育所から餅つき大会に招待されていたが、コロナ禍の為、今年度はそれがなくなった。そのかわりに、子どもたちが地域の方から教わった、昔から伝わる遊びを通して交流することにした。自分たちが教わったことを保育所の子どもたちに伝える場をもつことで、人に教えることができるようになるために、まずは自分が上手にできるようにならなければいけないという強い気持ちを持ち、やる気をもって活動に取り組むことができると考えた。

3 児童に見られた変容

教室に昔から伝わる遊びの道具を置いたことで、子どもたちは、休み時間になると、積極的に練習をするようになった。特にこまが人気で、初めは、こまを回せる子どもがほとんどいなかったが、毎日練習するうちに、こまを回せるようになってきた。地域の方に来てもらった日には、地域の方とのこまの勝負ができ、とてもうれしそうにしていた。

プログラムの準備や進行の練習を通して、自分たちの活動という意識が高まり、子どもたちは主体的に活動に取り組む様子が見えてきた。

吉田保育所で、紙飛行機、こま、けん玉の3つを教えることになり、子どもたちはよりやる気をもって練習するようになった。特にこまは、学級の全員が回すことができるようになった。紙飛行機作りでは、教えてもらったときは、全員が地域の方に手伝ってもらってようやく完成していたが、作り方を練習し、自分たちだけで作ることができるようになった。また、けん玉も練習して少しずつ上達してきた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立田井小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
5・6	総合的な学習の時間	吉田の文化遺産『たたら』の秘密を探ろう	吉田の地域に関心を持ち、進んで調べようという意欲を持つ。 学習を通して、ふるさとの良さに気づくことができる。

1 取組の概要

- 1) 自分たちの住んでいる地域が行われていたたたらについて、菅谷高殿・鉄の歴史博物館の見学や(株)田部の方のお話を聞くことを通し、気づいたことや調べてみたいことを話し合う。
- 2) たたらの体験を行う上で必要なものを調べる。
- 3) 実際に地域に出かけ、たたらの材料となる砂鉄・真砂土を集める。
- 4) 講師の方と共にたたら体験を行う。
- 5) 小だたら操業で産出した鉄を使い、小刀を製作する。
- 6) 学習したことをまとめ、自分たちの活動やふるさとの産業について色々な方に知ってもらおう。



2 ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 1) 地域の自然との関わり
実際に材料の収集に出かけ、体験することでさらに興味や関心を持てるようにする。
- 2) 講師の方との連携
たたらについてよく知っている方に来てもらい、一緒に活動をしたり直接話を聞くことで、新しい発見をしたり良さを知ったりすることができるようにする。
- 3) 相手意識を持った発表の場を設ける
聞いてもらう人を意識して発表の場を設けることで、自分たちで伝わるように工夫しながらまとめることができるようにする。



3 児童に見られた変容

- 1) 小だたら操業を通して、地域の歴史にふれ、先人たちの鉄作りの工夫や努力を知り、地域の歴史の素晴らしさを感じるとともに、これからもその伝統を残していきたいという心情が育った。
- 2) どんなまとめ方をしたら聞いている人に伝わるか考え、分からないことは自分たちで調べて工夫をしながらまとめることができた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立掛合小学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
6	国語 総合的な 学習の時間	掛合のプロフェッショナル に学ぶ	自分達のふるさとの様々な職業に携わる方から仕事内容や思いを聞いたりすることで、ふるさとの理解を深めるとともに、自分の将来や生き方について考える。

1 取組の概要

- 1) 国語科「プロフェッショナルたち」を読み、紹介されている3人のプロフェッショナルの考え方や生き方について読み取る。
- 2) 地域医療に携わる医師から話を聞く。(総合的な学習の時間)
- 3) 「掛合のプロフェッショナルたち」として地域の様々な職業に携わる6名の方から、仕事内容や思いを聞いたり質問したりし、自分の将来や生き方について考える。(総合的な学習の時間)
- 4) 「自分の考えるプロフェッショナルとは」について文章にまとめる。(国語科)

2 ふるさと教育の視点を持った授業(活動)にせまるための授業づくりのポイント(工夫)

- 1) 国語の「プロフェッショナルたち」を読み取り、講師から話を聞く時のポイント、「その職業に就くきっかけ」、「プロフェッショナルとして大事にしていること」、「これまでに経験した失敗や困難をどのように乗り越えたのか」、「プロフェッショナルとしてのターニングポイント」などを共通理解しておく。
- 2) 自分たちの身近な「ひと」である、「掛合のプロフェッショナルたち」の話を聞いた上で、国語の単元のゴールである、「自分の考えるプロフェッショナルについて文章にまとめる」ことを伝える。
- 3) 医療、政治、福祉、教育、林業、工業と、様々な分野の講師を依頼することで、幅広い話を聞くことができるようにする。
- 4) 「掛合のプロフェッショナルたち」では、自分が聞いてみたい3人の話を選んで聞くこととし児童の興味、関心を高める。

3 児童・生徒に見られた変容

・自分たちに身近なプロフェッショナルの話を聞くことで、「仕事を楽しまたい」「その仕事に誇りをもちたい」「人を幸せにすることにはたくさんのやり方がある」「努力が一番大切だと思っていたけど、どれだけ人に喜んでもらえるかが大切だと思ようになった」「学ぶということはどの職業でも必要だと思った」「人の役に立つ仕事に就きたい」など、仕事に対する考え方や、これからの自分の行動について、振り返ったり意欲を高めたりする姿が見られた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立大東中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
1	総合的な学習の時間	雲南市探訪	地域の名所や特産に直接触れ、そこでの「ひと・もの・こと」との出会いを大切にする。

1 取組の概要

自分で興味を持った「雲南市内」の6町について、調査する活動を5月から計画的に実施した。

(1) 事前に図書や資料などを使って調べ、訪問先を決定し、学習の目標を設定した。

(2) グループで訪問する場所を選定し、事前に訪問の挨拶状を送り、9月の体験活動の準備を行った。

(3) 訪問の前には「マナー講習」を実施し、質問するときのマナーや作法を学んだ。

(4) 実際の訪問では、施設の方々や地域の人々に質問して、事前調査で疑問に思ったことなどを解決していった。

(5) 訪問時は、直接、雲南市の「文化財」ともいえる「もの」や「こと」に触れ、神社や記念館などで学習を深めた。

(6) 訪問後は、お礼の手紙を書き、お礼の作法なども学んだ。

(7) 訪問で学んだ内容をまとめてグループごとにポスターを作成し、学級発表会と学年発表会を行った。

(8) 全グループのポスターを2月の校内展示(参観日)で展示発表した。

2 ふるさと教育の視点を持った授業(活動)にせまるための授業づくりのポイント(工夫)

○雲南市の持つ有用な「もの」「ひと」について自分で気づくように観光パンフレットなども取り寄せ、全国に誇ることのできる文化があること気づけるよう配慮した。

○地域の人々の話を直接聞くことで、地域への愛着を深め、身近な学びになるよう配慮した。

○まとめに使う写真は生徒が自分で撮影した。そのために、活動当初から取材、撮影、まとめの学習過程を伝えることで、プレゼンテーションを意識した取材や写真撮影ができるよう工夫した。(プレゼンの仕方)

3 生徒に見られた変容

○感想や振り返りでは、「地域のよさに改めて気づいた」などの「地域への誇り」が感じられるものが多数あった。

○直接訪問や地域の人々への直接インタビューを通して、地域の人々の温かさや地元を大切にしている気持ちなどを感じることができた。

○礼儀やマナーに気を配りながら活動することで、地域の中での自分を意識することができた。地域の人々から学習への姿勢や挨拶を褒められ、また成果を共有したりすることを通して、地域に貢献したいという思いを強くすることができた。



菅谷高殿



須我神社



加茂岩倉遺跡



龍頭が滝

特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立海潮中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
全学年	総合的な学習の時間	地域の特産品（お茶）について学び、ふるさと『海潮の魅力』を探ろう	地域の特産に直接触れ、そこでの「ひと・もの・こと」との出会いを大切にする。

1 取組の概要

【探る・みがく】

- ・茶摘み…臨時休業明けの5月22日に班別でエリアを分けて行った。収穫した茶葉はその日のうちに地元の加工業者に持ち込み加工してもらった。
- ・お茶の学習…加工業者（大東藤原茶問屋）から、大東茶の歴史、お茶の種類、栽培、加工、成分や効能などについて学んだ後、おいしいお茶のいれ方について教えてもらった。
- ・お茶会…摘んだお茶を使って教わったいれ方で実習した。お茶の葉をプレゼントしてもらったので、後日復習も兼ねて各家庭でいれることとした。



【発信する】

- ・文化祭…「もてなし茶」と銘打ち、来場した保護者、小学生、地域の方々にお茶をいれ飲んでもらった。実施にあたっては、感染症対策に充分配慮して行った。
- ・動画…「海潮の魅力発信」動画を制作した。その動画の中に「お茶をいれる場面」を取り入れ発信した。



2 ふるさと教育の視点をもった授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

【見通しをもって計画的に実施する】

- ・「探る・みがく活動」から「発信」までの大まかな流れを年度初めに担当で計画し、全教職員で共通理解をもって実施した。状況によっては変更することもあったが、その都度担当者同士で検討し、柔軟に対応しながら実施することができた。
- ・茶摘み、お茶会、発信の活動など、その都度班長と事前打合せを行い、生徒主体でスムーズに進めることができるようにした。



【地域にかかわる人との連携】

- ・年度初めに「藤原茶問屋」の方に学校のねらいを伝え、そのねらいに沿った活動ができるよう打合せの時間を持つようにした。お茶の話やいれ方を教わるのは今年で4年目であるが、少しずつ話の切り口を工夫してもらい楽しく学習することができている。
- ・毎年地域の方に剪定や施肥等の支援をいただいている。



3 生徒に見られた変容

- ・地元業者から直接話を聴くことで地域の特産品であることを知り、地域のブランド「大東茶」に誇りと愛着をもつことができた。
- ・お茶の効能やおいしさを知ることで、日常的に愛飲しようとする生徒が増えている。
- ・地域の特色を知り、今後の地域のあり方や自分の生き方について考えようとする事ができた。
- ・「発信」の活動では、学習したことを活かして生徒一人一人が意欲的に活動することができた。

特色あるふるさと教育事例

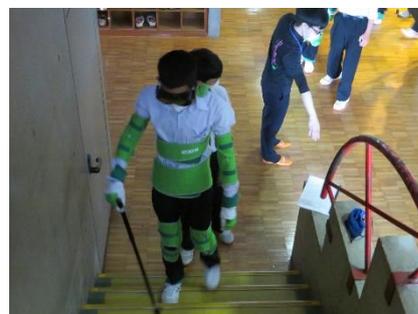
学校名	雲南市立加茂中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
2	総合	福祉教育	加茂町福祉(高齢者、障がい者、児童)について学び、加茂町をより魅力的な町にする方法を考える。

1 取組の概要

- (1) 福祉(高齢者、障がい者、児童、ボランティア等)について知る。
- (2) 高齢者体験、アイマスク体験をする。
- (3) 福祉学習についてまとめ、発表(プレゼンテーション)する。
- (4) 私のボランティア計画書を作り、掲示する。

2 ふるさと教育の視点を持った授業(活動)にせまるための授業づくりのポイント(工夫)

- (1) 地域の「ひと」との連携
 - ・ 社会福祉協議会から4名のスタッフの方に来ていただき、加茂町の福祉や雲南市の現状について話していただいた。町内の様子については生徒がイメージしやすく自分事としてとらえることができた。
- (2) 体験(高齢者、アイマスク)活動
 - ・ 体験を取り入れたことで、高齢者、視覚障がい者の大変さを理解するとともにどのようなかわりをするとよいか考えることができた。
- (3) ボランティアとの関連づけ
 - ・ コロナ禍で実際にはボランティア活動はできなかったが、ボランティア計画書を作り、今後行ってみたいボランティアについて考えることができた。



3 生徒に見られた変容

- (1) 福祉とは特別なものではなく、身近なものであり、自分たちでも気軽に取り組めるものだという意識が芽生えた。
- (2) 困っている人を助けたいがどうしたらよいかわからないという生徒が多かったが、具体的に自分にできることをイメージし、実践しようとする態度が育った。
- (3) ボランティア計画書作りを通して、町内でボランティアをやってみようという気持ちが育った。

特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立木次中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
1	総合的な学習の時間	「未来への提言～みんなが住みやすい木次町にしていこうために～」	地域の魅力を再発見する取組で、地域への一層の愛着を育むとともに、課題を発見し解決を模索することで郷土を大切に思う心をもった生徒を育成する。

1 取組の概要

- 1—①学習のめあてや流れを知る。
- 2—①小学校でのふるさと学習を共有する。
②木次町の良いところを紹介する。
- 3—①木次町と他町の違いを知り、木次町を活性化するヒントを見つける。
②みんなが住みやすい「木次町への提言」をつくる。
③中間発表会をし、提言を再構築する。
④最終発表会を行い、学習内容を共有する。
- 4 学習を振り返り、自己の生き方について考え、未来への展望をもつ。

2 ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・ゲストティーチャーとして豊富な地域人材を活用し、生の声を聞く機会を設定したこと。
- ・カリキュラム・マネジメントによって英語科との横の連携を図り、ALTへの英語でのプレゼンテーションを行ったこと。
- ・最終発表の前段階として中間発表を行い、生徒の相互評価やゲストティーチャーからの助言により提言を再構成する学習を行ったこと。

3 児童・生徒に見られた変容

- ・木次町および雲南市全体について、地域の方の話の聞いたり調べたりすることでふるさとの現状・課題・展望等について、より自分の身近なこととして深く考えられるようになった。
- ・調べたり聞いたりしたことを提言としてまとめることを通して、地域の活動に協力したり参加したりしようとする意識が高まった。



特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立三刀屋中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
1	総合的な学習の時間	地域学習UNNAN・B	未来にも伝えていきたい雲南市の歴史、自然、文化を調べ、実際に訪問をし、ふるさと雲南への興味・関心を高める。

1 取組の概要

- 雲南市について簡単に学習したのち、研修地について調査し、質問を考える。
- 研修地を訪問し、知識を深めるとともに研修地や活動を守り続けている地域の方の思いを知る。
- 同級生に対して、伝えていきたい雲南市の歴史、自然、文化についてのプレゼンテーションを行う。

2 ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 地域の方々との連携
地域の方々に講師を依頼し、雲南市の歴史、自然、文化について興味・関心をもてるようにする。訪問後の礼状作成を通して学んだことを確認する。
- 発表の場の設定
訪問することで学んだ知識や地域の方々の思いを、プレゼンテーションを通して共有し、ふるさと雲南を愛する心情を育てる。
- 活動の振り返り
各学習時間、単元の振り返りを通して、ふるさと雲南への愛着を高める。

3 児童・生徒に見られた変容

実際に現地を訪問し、講師の方の話を聞いたり、見学したり、体験させていただいたりすることを通して、未来に伝えていきたい雲南市の歴史、自然、文化を身近に感じることができた。またその経験と地域の方の思い、それらを通して考えたことを、プレゼンテーションで同級生に伝えることで、雲南市の歴史、自然、文化の価値を共有し、ふるさとのすばらしさに気づくことができた。



特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立吉田中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
全学年	総合的な学習	吉田の芸能	ふるさとの「ひと・もの・こと」と積極的に関わり、ふるさとに愛着と誇りを持ち、ふるさとに貢献する生徒の育成をめざす。

1 取組の概要

- ・ 開設講座名 ①火焰太鼓 ②深野神楽
- ・ 班編制 受講希望のアンケート結果により、全校生徒の縦割り班とした。
 ①火焰太鼓 21名（1年8名、2年4名、3年9名）
 ②深野神楽 9名（1年3名、2年2名、3年4名）
- ・ 活動時間 2時間×6回（全12時間） 文化祭での発表
- ・ 活動内容 ①火焰太鼓 吉田地区の和太鼓を練習し、文化祭で発表した。吉田の方が作曲された「清流」と「三宅」を演奏した。
 ②深野神楽 田井地区の深野神楽を練習し、文化祭で発表した。今年度は演目「ヤマタノオロチ」を演舞した。



2 ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- 1) 地域で伝統芸能に携わっている「ひと もの」との連携
 各講座とも地域講師として学習に参加していただき、指導をしていただいた。また、地域で使用している和太鼓や深野神楽の衣装等もお借りして、練習や文化祭での発表を行い、より本物に近い伝統芸能を経験することができた。
- 2) 目的意識を持った成果発表の場を設ける
 練習した成果は文化祭で発表する場を設け、友達はもちろん講師の方や保護者にも見ていただき、意欲を持って活動に取り組めるよう計画した。



3 生徒に見られた変容

- 1) 縦割り班で継続して取り組むことで、上級生から下級生に指導することで、リーダー性や自己有用感を高めることができた。また、自然に他学年との交流ができ、学校生活全般にわたって親しく交流する雰囲気が築けた。
- 2) 地域の方に指導していただき、伝統芸能に携わる方への尊敬と感謝の気持ちを高めることができた。
- 3) 文化祭ではそれぞれの講座とも自信をもって自分達の練習の成果を発表することができ、本校の研究目標である「表現力の育成」の観点からも表現力が高まったといえる。



特色あるふるさと教育事例

学校名	雲南市立掛合中学校		
学年	教科等	単元名	ふるさと教育の視点
3	総合	○掛合の文化を継承しよう ○私たちがつくる未来の掛合	地域の人々とのふれあいや体験を通じて、ふるさとへの愛着と誇りを養うとともに、心豊かな人間性・社会性をもつ子どもを育てる。

1 取組の概要

総合的な学習の時間A「コース別総合」掛合太鼓・掛合トランプ・一式飾り
地域の方を講師として迎え、実際に体験を通して地域文化の魅力を考える。

総合的な学習の時間C「探究学習」わたしたちのつくる未来の掛合

観光・文化・福祉の班に分かれ、それぞれの視点から、掛合の課題を考えるとともに、解決方法を考え、行動し、地域や行政への発信を行う。

2 ふるさと教育の視点を持った授業（活動）にせまるための授業づくりのポイント（工夫）

- ・教育支援コーディネーターにより、この取組に協力していただける人材確保をしてもらうこと。
- ・生徒自身が地域の課題を自分の課題として捉え、活動できるように「課題設定」の時間を充分確保すること。
- ・発信の場を明確にすること。

3 生徒に見られた変容

- ・この取組を通し、市の広報誌や活動について考える生徒が見られたこと。
- ・中学校卒業後も、自分で地域の課題を考えて行動し、雲南市スペシャルチャレンジ事業に提案していく考えの生徒がいること。



雲南市のふるさと教育
R2年度 特色あるふるさと教育事例集

